一人でできる仕事はない。関わる、話す、そして「視点」は広がっていく【yuu/Webデザイナー募集】

（2021.11.16 取材・文・写真：田中優実）

「いつかは終わる。いつかは必ず終わりが来るから……頑張ろう」

制作会社で新人ライターとして働いていた頃。先輩からの励ましの言葉を背に、必死になってキーボードを叩いていた。

昔から、とにかく筆が遅かった。一つの記事を書くのに、何時間も何日もかかってしまう。書いては消す、書いては悩み、また消す。

まるで終わりの見えない、いたちごっこである。

……と思うと同時に、当時の私は、ひっそりとこんな妄想を膨らませていた。

「いつかは、書けない悩みから開放される」
「ベテランにさえなれば。キャリアさえ積めれば」

つまり、生みの苦しみから抜け出せないのは、自分が新人だからであって、ある程度キャリアを積んだ未来の私は、さぞかしスムーズに仕事をこなしているだろうと見積もっていたのである。（「んなわけあるか！」と今さらながらつっこみたい）

……けれども、そんなおめでたい妄想は「ある人」との出会いによってあっけなく粉砕されてしまう。

―「いつも納期ギリギリまで悩んで。自分でも非効率だなって思うんですよ。だけど、僕はそうしないと、どうにもやり切った感じがしなくて」

そう話してくれたのは、Web・グラフィックデザイナー/yuu代表 平岡直樹さん（42歳）。

1979年 京都府生まれ。枚方育ち。10年間の制作会社・株式会社ノイでの勤務を経て、2018年に個人事業主として独立。同時にデザイン事務所yuuを設立した。

コンセプトである「優しいデザイン」が評判を呼び、現在は大阪府枚方市内を中心にコワーキングスペースや、カフェ・工務店など幅広いデザインを手掛けている。

2019年にブランディングデザインを担当した大阪府枚方市のコワーキングスペース「ビィーゴ」。写真はオープン前の様子。

デザイナーとして、キャリアもスキルもある。クライアントからの信頼も篤い。独立から2年が経つ頃には、一人では追いつかないほどの依頼が舞い込んできた。

そんな優れたクリエイターが、一体何に悩むというのだろう？

私は次々と新たなデザインを生み出す人生の先輩に、教えてほしいことばかりだった。

> 「サイトやグラフィックを見る相手の立場に立って考える視点」は、僕自身ずっと言われてきたことで、仕事をする上でとても大切にしています。（中略）
> 「そこまでやってくれるの？」っていう期待は超えたいと思っていて。一緒に作品を作るという姿勢、最後まで諦めないなど…言い出したらキリがないのですが、きちんと要望を聞き、何度も応えていくことで信頼関係を築いていけると考えています。
>
> 引用：電車好きっ子集まれ！GWは枚方市駅でこどもたちが描いた電車が動き出す…？枚方Web制作・デザイン「yuu」の平岡さんに詳しい話を聞いてきた

3年前、とあるメディアのインタビューで、平岡さんは自身の仕事観について、こんなふうに語っている。相手の立場に立って考える視点。クライアントと一緒に作る。最後まで諦めない。そのどれもが、私が長らく欲していた「効率のよさ」とは、どこか距離のある言葉のように思えた。

「これほど素晴らしいデザインができる人でも悩んだり、行き詰まることがあるのか」と驚くと同時に、たいした努力もしないまま「手っ取り早く、よいものが書けるようになりたい！」と息巻いていた自分を恥ずかしく思った。

ー2020年秋。そんな平岡さん率いるデザイン事務所yuuに、新たなメンバーが加わった。

「***yuu***で働いて***1***年。毎日が手探りで緊張しています」

竹内悠香さん（24歳）。兵庫県生まれ。芸術大学を卒業後、服飾の勉強やデザイン会社での勤務を経て、現在はyuuでグラフィックデザイナー・イラストレーターとして活躍している。

初期店舗ビジュアルイメージ

こちらは、竹内さんがビジュアルイメージ・販促物の制作に携わったという「SUGIHARA COFFEE ROASTER 枚方市駅店」。

当初は3ヶ月限定のチャレンジショップだったが、4月に発売したマリトッツォが「連日、販売開始30分で売り切れる」という快挙を達成。出店延長が決まった。

（一人から二人へ。2020年秋、yuuは平岡さんの個人事務所からデザインチームになった）

「yuuの求人を見つけたのはInstagramです。ひと目見て『この雰囲気、好きだ〜！』と思って。そこからWebサイトで、制作実績や過去のインタビュー記事を読んで応募しました。

『案件ベースでの依頼』と書いていましたが、正直働く人数はもっといると思っていましたね。まさか平岡さんと私の二人だけだったとは（笑）」

（竹内さんの応募のきっかけとなったyuuのInstagram）

2021年現在、yuuは「デザイン会社」ではなく「デザインチーム」という形をとっている。個人事業主として活動する平岡さんをサポートする形で竹内さんが加わった。

現在は週の半分が在宅勤務。もう半分を平岡さんがブランディングデザインを務めたコワーキングスペースビィーゴで過ごしている。

「誰かとチームになって一緒に働く」ということは、普通のことのようで少々むずかしい。デザイナーやライター、フォトグラファー、何かを「作る人」は決まってこだわりが強い傾向にあるし、「フリーに動ける」のは文字通り個人事業主ならではの魅力でもある。

だから平岡さんから、「今度、**yuu**にとって三人目のデザイナーを募集するんです」と聞いた時は驚いた。

誤解を恐れずに言うのなら、私はずっと「平岡さんは一人でとことん突き詰めていく職人気質な人」だと思っていたからだ。

だからこそ、聞いてみたいと思った。
yuuにとって「誰かと一緒に働くこと」とは、いったいどういうことなのだろうと。

個人事業主**3**年目。**2021**年は一人じゃ乗り切れなかった。

ー2018年の開業から**3**年。**2020**年からは竹内さんも加わり、さまざまなデザインを手掛けられていますよね。デザインチームとしての**yuu**は今どういったフェーズにあると感じますか？

平岡：独立してから1年2年と本当に運よく軌道に乗って、今日までこれたなと。ローカルメディアで取り上げていただいたり、枚方市駅にあるコワーキングスペースのトータルデザインに携わらせてもらったり。本当に運がよかったんでしょうね。2020年の後半にはありがたいことに竹内さんも加わってくれて。特に2021年は絶対に一人じゃ乗り切れなかったなと。

平岡：仕事に関しては「依頼がくる」＝「助けてほしいサイン」だと思っていて。だから、滅多なことがないと断れないと言うか……断らないようにしているんですよね。

― そうすると、キャパオーバーになっちゃいませんか？

平岡：なっちゃいますねえ。

竹内：なっちゃいましたねえ（笑）

平岡：仕事があるのに、ちゃんと受けられる体勢が整っていない。ここがいちばんの課題だと思っていて。いいものを作るにはそれなりの時間が必要。ずっと一人でやってきたけど、あらためて「誰かの手を借りたい」「人と働きたい」と思ったんです。2022年はチームとしての体勢を固めたくて、今回三人目のデザイナーを募集することにしました。

細部まで工夫とこだわりを。
ローカルだから追求できる遊び心あるデザイン。

（求人募集のビジュアルデザイン。こちらも竹内さんが担当されたそう！）

ー 今回の募集は**Web**デザイナーですよね。

平岡：はい。Webデザイン・コーディングができて、できれば枚方のコワーキングスペースに時々来てもらえればと思ったんですけど、なんだか条件が贅沢すぎる気がしてきました（笑）そういう人は大手のデザイン会社に行くだろうから……

ー 一般的なデザイン会社と**yuu**の違いはどんなところにあると感じますか？

（**2020**年制作事例。枚方市・八幡市の外壁塗装の「SHINKIペイント」）

平岡：Webデザインには大きく分けて、コーポレートサイトのようなかっちりとしたものと、yuuで作っているような「遊び心のあるもの」の2パターンがあると思うんです。

誰もが知っているような有名企業のデザインは、日本だと博報堂と電通が担当しますよね。

間にはたくさんの人が介在して、その2社とつながっているデザイン会社が下請けとして制作する。

あとは一部上場企業や中小企業は、前職のような制作会社に依頼する。予算のある企業が多いから、大掛かりなことはできるけど……

ーその分、コーポレートサイトっぽいデザインになる。

平岡：そうそう。一方yuuに依頼してくれる方は個人事業主だったりカフェだったり工務店さんが多い。「おもしろいデザイン」も取り入れやすいし、お客さんとの距離も近い。

制作実績としては出せないんですけれど、代理店さんからの仕事もある。いろいろなお客さんがいて、そのバランスがyuuの魅力かもしれません。

（平岡さんが手掛けた「SUGIHARA COFFEE ROASTER 枚方市駅店」のWebサイト）

竹内：個人で経営されているお店、地域に根付いた活動をされている方……「人の顔が見えるデザイン」に関われるのはyuuならではだと思います。私はもともと、街に根付いた仕事がしたいと思っていたので、そういう人にとってはすごくやりがいのある仕事なのかなと。

平岡：お客さんとの距離の近さ、デザインへの工夫を面白がってくれる人に来てもらえたら嬉しいですね。

― 竹内さんは**yuu**で働いてちょうど**1**年ですよね。この**1**年を振り返って、今どんなことを感じていますか？

竹内：昔働いていた会社では、「この冊子のこの枠内でイラストを書いて」とか、一部だけに携わる仕事が多かったんです。でも、yuuに入ってからは企画の段階から携わらせてもらう案件も多くて。

今は枚方市のフリーペーパーを作らせてもらっているんですけど、1ページまるごと担当させていただいたり。プレッシャーがある分、やりがいも大きいです。

― ご自身で「変わったな」と思うことはありますか？

竹内:う〜ん…本当にまだまだなのですが、「デザインの意図」は考えるようになったかなと思います。

ー デザインの意図？

竹内:平岡さんのデザインって、キャラクターひとつをとってもストーリーや背景があるんです。で、私も見せるたびに「なぜこうデザインしたんですか？」と聞かれるんですね。最初は全然説明できなかったんですけど、最近はそのおかげか「意図して作る力」が少しずつ身についてきたのかなと。

（デザインとイラストを担当した「観光フリーペーパーひらい第11号」。竹内さんの担当ページは04・05・13）

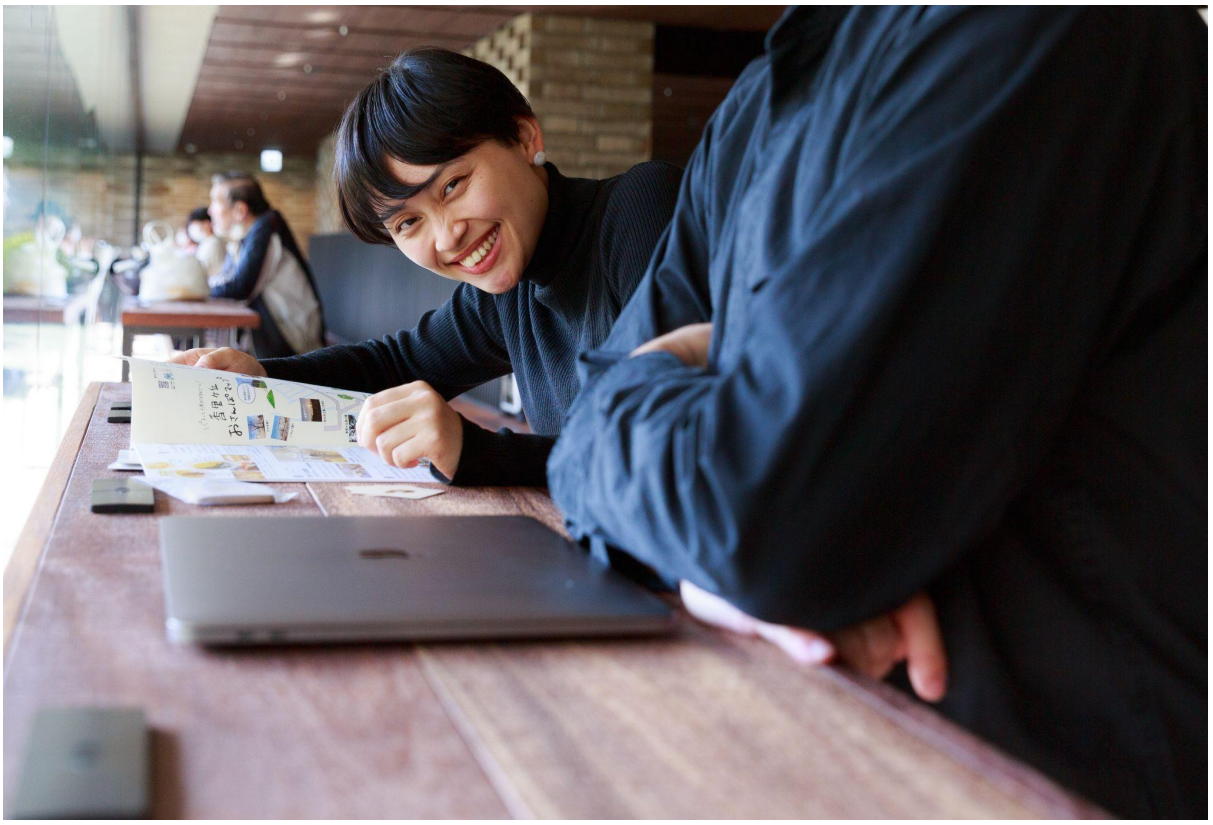
ー新しいデザインがサイトに出るたびに「こんなに考えられて作られているんだ！」と驚いています。平岡さんご自身は独立前から「デザインの意図」を意識されていたんですか？

平岡 :フリーランスになってからかもしれないですね。制作会社にいた頃は、ディレクターが一緒に動いてくれていたので。お客さんへの説明は特に苦手でした。最後の方はヘタクソなりに説明を頑張ったり。代表には「流暢すぎると押し売りっぽいから、君の不慣れな感じが逆にいいんじゃない？」って言われたり（笑）

だけど独立後は、自分の言葉で説明して、お客さんに納得してもらわないと仕事が決まらない。デザインの意図はより深く考えるようになったと思います。

お互いのよさは、とにかく諦めないところ

ーお二人にとってお互いの第一印象ってどんな感じだったんでしょう。



竹内：初めて会ったのは、梅田のめちゃくちゃ騒がしいカフェでしたよね。大きい声で話しても、お互いの声が全然聞き取れなくて（笑）

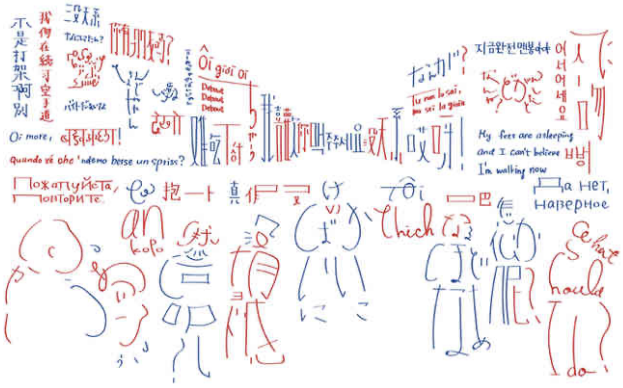
制作実績や平岡さんのインタビュー記事を読み込んでいたので、面接当日はなんだか有名人に会った気分でした！

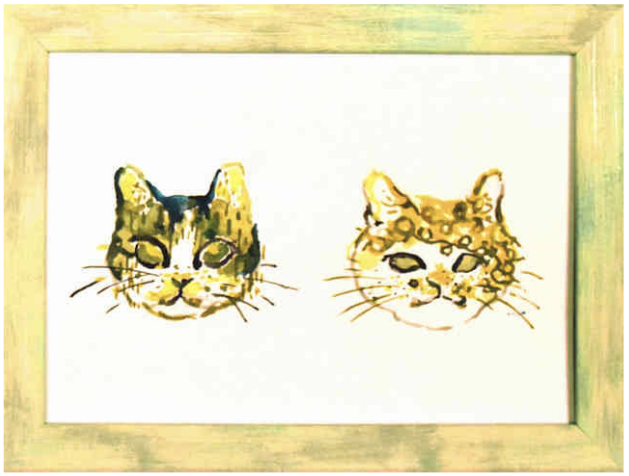
平岡：ええ！！や、やめてください……（笑）

平岡：竹内さんの第一印象……。

ああ、そうだ。履歴書に「短所は、考えすぎるところ、悩みすぎるところ」と書いていて。いわゆる芸大卒のノリノリな感じじゃなくて、いい意味ですごくまじめな人なんだろうなと思いました。

事前に送ってくれていたポートフォリオも、よく考えられていて。すごいなあ、と。水彩画のような「優しいタッチのイラストが描ける人」を探していたので、本当にありがたかったです。





（竹内さんの個人ポー フォリオ。水彩タッチの柔らかなデザインが並ぶ）

竹内：え～！　嬉しい、ありがとうございます！

ーお互いを「似ている」と感じることはありますか？

平岡：何だかんだ似ているんだと思います。お互いとことん悩むタイプなので。二人して落ち込むこともありますし。

竹内：一時期、平岡さんと「案出し」をしていたんですけど、どんどん深みにハマっちゃって。

平岡：僕の指示がすごく曖昧で、竹内さんを困らせてしまって。

竹内：いやいや、そんな。

平岡：それでも、竹内さんは「こうですか？」「あってますか？」って諦めずに僕に食らいついてくれるんですよ。だから今があって。「諦めない」。僕自身、仕事をする上で大事にしていますし、竹内さんのすごいところだなと。

竹内：わ、あらためて言われるとすごく嬉しい。平岡さんこそ、「諦めない人代表」だと思いますよ。

平岡：うーん、僕は仕事のことですごく悩むタイプで。家では嫁に「もうあかんわー」「できひん」ってグチグチ言うわけですよ（笑）でも、いっぱい悩んで最後にはちゃんと完成できたりする。

この間、長男に「パパのいいところはなに？」って聞いたら、「絶対に諦めないところだよ！」って言われて……。

ああ、ちゃんと父親やれてるのかなって。ちょっと嬉しくなったんですよね。

ーまさに「背中で語る」ですね。あの…平岡さんみたいに長く働いている方でも、デザインに迷うことってあるんですか？

平岡：ええ！？　そりゃあ、もちろんありますよ！！

上を見たらキリがないです。

納期ギリギリまで、思うようにデザインできない時は苦しいし、しんどい。自分でもすごく非効率だなって思います。

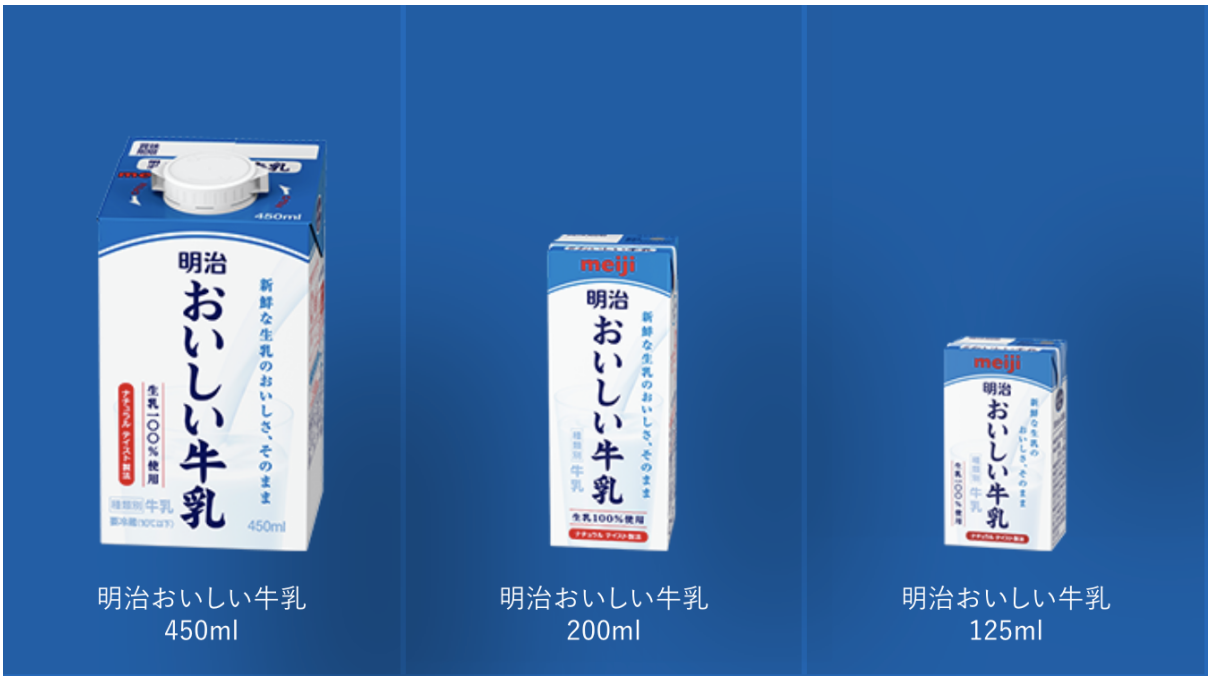
それでも、諦められなくて。嫁には「あなたについてきてくれるのは、竹内さんだけやで」って言われます。でも、いつまでも竹内さんに甘えているのもダメだと思って、働き方をふくめ今は改善の途中なんです。

100%自分でもダメ、真似をするだけでもダメ。その塩梅が難しい。

竹内：私としては、平岡さんのデザインをただ真似をするだけじゃダメだと思っていて。とはいえ、100%自分のカラーを出せばいいってものでもない。「自分らしさ」の正解がわからなくて、この1年は相当悩みましたね。

―「らしさ」ってどうやったら出せるんだろう…私も模索しているかもしれません。

竹内：難しいですよね。あっ、あの……『おいしい牛乳』のデザインを手掛けた佐藤卓さんってご存知ですか？　このパッケージをデザインされた方なんですけど…



（引用：明治おいしい牛乳公式サイト）

―あ、見たことあります！

竹内：彼の手がけるデザインって、いい意味で癖がなくて。学生時代に講演会に行ったんですけど、その時の言葉が印象的で。「個性は無理に出さなくていい。そのうち自然と滲み出てくるものだから」と。数年前なのでちょっと記憶が曖昧で申し訳ないです！

―個性は自然と滲み出てくるもの……。

竹内：私らしさを求められても、奇抜に振舞うのはちょっと違う。今は平岡さんの元で吸収しながら、フラットにデザインする。いつか自分らしさが出ればいいなと思います。

―平岡さんはご自身の「らしさ」についてどう考えていますか？

平岡：うーん。前職で働いていた時から「デザインの雰囲気が優しい」と言われることが多かったんです。独立後も、わかりやすいコンセプトがあればと思って「優しいデザイン」と名付けました。

一人でやっていた時は、100%自分のカラーでよかった。でも、今後は一緒に働いてくれる人にもyuuのビジョンを明示していかなきゃと。

デザイナーとしての自分と、経営者としての自分。まだまだ葛藤もあり、2021年は新たな課題が見えた1年でした。

一人でできる仕事はない。
関わる、話す、そして広がっていく。

ー三人目のデザイナーに求めることはやはり「諦めない心」でしょうか。

平岡：うーん。でも同じ人間が三人いるのがいいとも限らないですよね。

竹内：正直今は、チームというよりは「私」と「平岡さん」の二人って感じで。でも、三人となると、いよいよ「チーム感」が出る気がします。

平岡：確かに。自分と竹内さんともう一人。三人ぐらいの規模感で、ゆくゆくは会社にしたいと思っていて。僕も竹内さんも、悩んじゃうタイプなので、三人目はあっさりした人がいいのかな？（笑）

なんでも「あ、そっすか」で解決してくれるような。

竹内：どうなるんだろう（笑）あとは、すごくテキパキした人とか？

平岡：ぜひ、引っ張ってもらいたい〜（笑）

ーお二人が、これから挑戦したいことってありますか？

竹内：純粋に「いいもの」を作っていきたいです。本当は手となり足となりたいけれど、今はまだ平岡さんのOKをもらうことに必死なので。

毎日が体当たり。でも体当たりばかりだと潰れてしまうので、ときどき歩いたり。模索してますね。

今はグラフィックとイラストが中心ですが、2022年はWebデザインにも挑戦したいです！

平岡：ひとつは最初に話した「チームの体勢を整えていくこと」。

もうひとつは今すぐじゃないんですけれど。独立する前から、僕をずっと支えてくれているカフェのオーナーさんがいるんですね。

その人には、もう全く頭が上がらいほど感謝していて。今も昔も変わらず支えてくれる「昔からのお客さん」を今後はもっと大事にしたい。いつか恩返しができるように。もっと成長したいです。

ーお二人にとって「誰かと一緒に働くこと」ってどんな存在なんでしょう。

平岡：極論、100%自分一人で仕事をするってムリだと思うんです。そう気づいたのは、とある工務店の代表との出会いで。

ーお客さんとの出会いがきっかけだったんですね。

平岡：僕はデザインには「引き算」が大事だと思っていて。

でも、お客さんとしては伝えたいことが山のようにありますよね。

「少しテキスト量を減らしませんか？」「言いたいことを絞りませんか？」って何度もやりとりを重ねていくうちに、ある日ふと思ったんです。これって、お客さんの立場からすると「全然要望を聞いてくれないデザイナー」になっているのでは……と。

ーむ、難しい。

竹内：最終的にどうなったんですか？

平岡：お客さんに直接相談してみたんです。「減らすこと、削ることがストレスになっていませんか？」って。

平岡：そうしたら、こう言われたんです。

「自分自身の課題は、客観的な目線や見せ方。だから、平岡さんが感じていることがあれば、遠慮なくぶつけてほしいです」と。

その瞬間、デザイナーの視点だけでも、お客さんの視点だけでもダメなんだと思いました。お互いの関わりの中で、知見が広がって、その結果として「いいもの」ができる。

――一歩踏み込んだ関わりで、デザインの方向性が定まったんですね。

竹内：確かに話すことはすごく大事だなと思いますね。自分では気がつかなかった視点に気付けるから。

平岡：ああ……。だから、僕は人と一緒に働きたいのかもしれないです。スタッフも、お客さんも関わり合って、人と話して、新しい「視点」が生まれる。

仕事は一瞬一瞬の繰り返しで、泥臭く悩みながらも、ちゃんと関わって、これからもいいものを作っていきたいです。

ー実はこの取材の1週間前に、竹内さんからこんなメッセージをもらっていた。

「今度、枚方市のフリーペーパーで*JR*長尾駅周辺を特集するんです。よかったら案内していただけませんか？」

JR長尾駅は私の地元。もちろん、ふたつ返事でOKした。

10月も終わりを迎え、外は肌寒い。雨もふり出しそうだった。

（撮影：竹内さん。写真は長尾にある大きな池）

なんでもない殺風景な田舎道を、堺市からやってきた竹内さんと歩きながら、私はyuuのコンセプトである「優しいデザイン」について、あらためて考えていた。

（撮影：竹内さん。少し晴れてきた！）

竹内さんは、水彩のような淡く柔らかい線を描ける人だった。

（アルバムのためのイメージイラスト。竹内さんのポートフォリオより）

それは、偶然にも平岡さんが求める雰囲気……yuuのコンセプトである「優しいデザイン」とマッチしたのかもしれない。

けれども。
私はyuuから生み出される「優しさ」はもっと深いところにあると思っている。

実際に街を歩かなくったって、素材写真は十分にある。それでも、竹内さんは「歩いてみたい」と言う。

「デザイナーは知らない世界を知れるから、おもしろいんです」と。

対象を深く知ること。知りたいともがくこと。好きになること。びっくりするぐらい悩んでしまうこと、締め切りギリギリまで粘ってしまうこと。

それでも悔しくって、いつのまにかまた「効率のよさ」からは遠い場所に、自分を置いてしまうこと。

（SUGIHARA COFFEE ROASTERの制作を通して「シングルオリジンコーヒーの魅力がわかったんです！」と竹内さん）

そして、まだお客さんが気づいていない「よさ」を形にすること。
わかりにくいこと、難しいことを、やさしく解きほぐしていくこと。

知るたび、話すたび、愛せるものは増えていく。

そう考えると…「作ること」は、「誰かをとことん好きになってしまう気持ち」に、どことなく似ている気がする。

インタビューの途中、平岡さんは「自分の指示が曖昧で……」と口にしたけれど、yuuの心は、いつの間にかちゃんと、竹内さんに伝わっていたのだと思う。

仕事は一瞬一瞬の繰り返しで。だからこそ、歩いて、悩んで、対話をして。
そうして集めた「たくさんの点」は、絶対に誰にも奪われない。彼女が掴み取った、彼女だけの「視点」である。

yuuのデザインから「竹内悠香らしさ」が滲み出して、自然と溢れてしまう日も、そう遠くない。

・
・
・
・

ーインタビュー終了後、「数年おきにインタビューしたら、yuuの変化がわかっておもしろそうだ！」と盛り上がった。

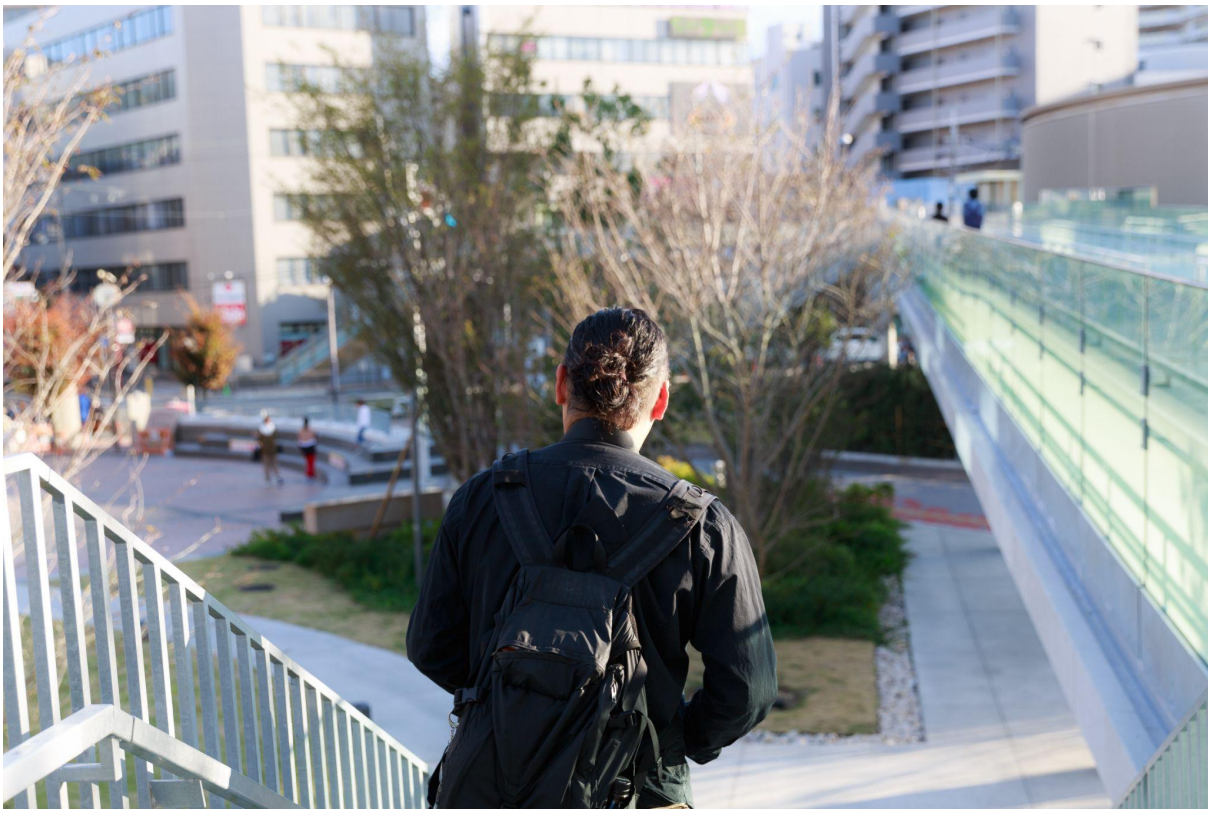
数年後、私はどうしているだろう？

“二人から三人”へ。

新体制になった**yuu**のインタビュー記事を、また今日と同じように、うんうんと悩み悶えながら、何度も何度も書き直す自分の姿が……いとも簡単に頭に浮かんでしまった。（書くスピードも、もれなく遅いんだろうなあ）

けれども、そんな自分を、昔ほど疎ましくは思わないだろう。

懲りずに書いていたい。それでも。
何かを作っていたい。作り続けていたい。いつまでも。

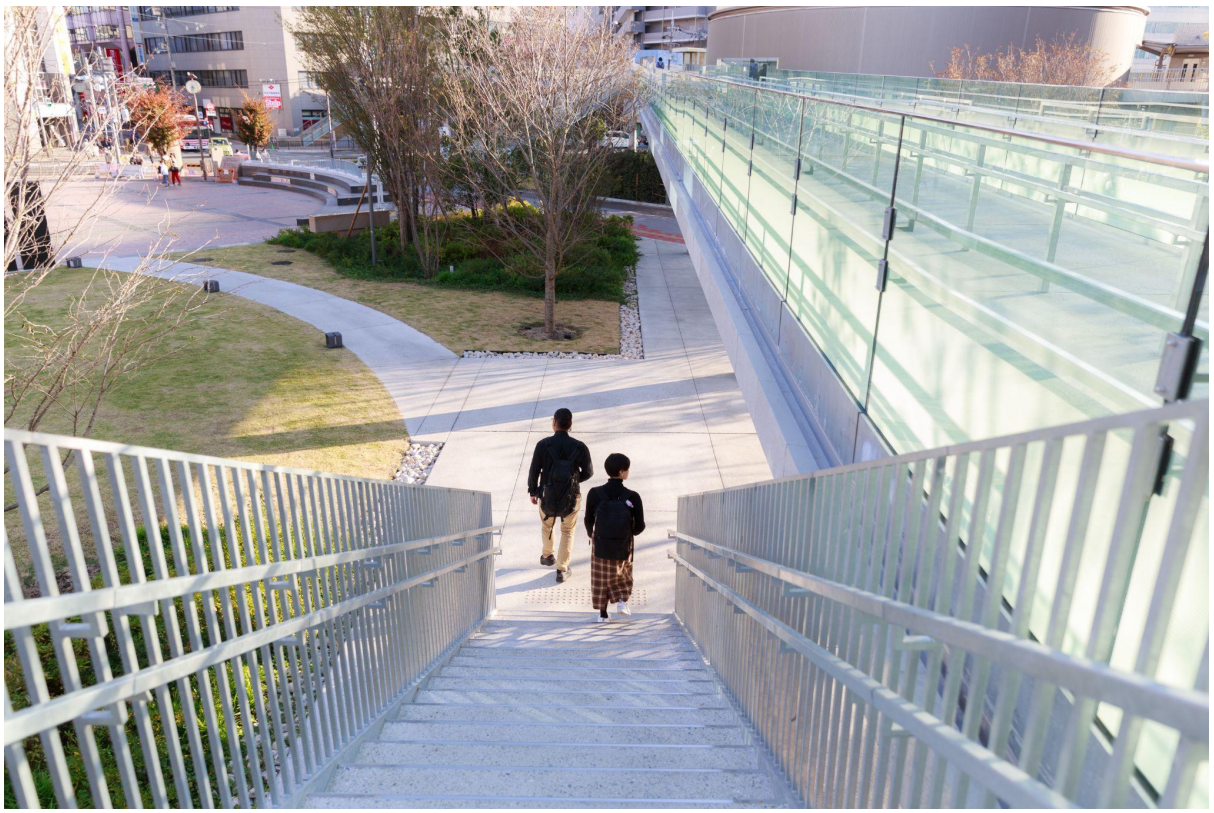


―「いつも納期ギリギリまで悩んで。自分でも非効率だなって思うんですよ。だけど、僕はそうしないと、どうにもやり切った感じがしなくて」

―「仕事のことですごく悩むタイプで。家では嫁に「もうあかんわー」「できひん」ってグチグチ言うわけですよ（笑）でも、いっぱい悩んで、最後にはちゃんと完成できたりする」

—「毎日が体当たり。でも体当たりばかりだと潰れてしまうので、ときどき歩いたり。模索してますね」

—「平岡さんのデザインって、キャラクターひとつをとってもストーリーや背景があるんです。で、私も見せるたびに『なぜこうデザインしたんですか？』と聞かれるんですね。最初は全然説明できなかったんですけど、そのおかげで最近は『意図して作る力』が少しずつ身についてきたのかなと」



もしも、思いっきり『つくる』に向き合いたい。デザイナーとしての『視点』を広げていきたいと思っているなら、迷わずこの扉を叩いてほしい。

ひとりじゃない。熱量ある人との関わりの連続の中で、あなたの見える世界は、どこまでも広がっていくはずだから。

---

yuu Wanted！Webデザイナー募集のお知らせ

yuuではデザイナー（正社員）を募集しています。

▼募集について
仕事の内容はwebデザインを主軸に、
ロゴ、パンフレット、ポスター、ショップツールなど、
幅広いデザインを求められるのが特長です。

また、yuuで関わらせていただける案件のほとんどは、
直接やりとりさせていただくことが多いため、
クライアントや商品への理解が大切になります。

プレゼンやデザインを提出する際も、
とても緊張感のあるものですし、反響がダイレクトに返ってくるため、
とてもやりがいのある、おもしろい仕事だと思います。

去年の夏頃から案件数も増えはじめ、
2人体制で業務を担当してきたのですが、
“もっとより良いものを提供したい！” “もっと丁寧なお仕事をしたい！”という想いで、
3人目のデザイナーを募集する次第となりました。

まだ開業して3年目。事務所もない小さなデザインチームですが、
スタッフの力を借りて、これからもお客さまのお役に立ちたいと思っています。

スキルがあれば良いに越したことはないですが、
人柄や性格をとても重要に思っています。
我こそは！と思う方がおられましたら、
是非ともご連絡いただければ幸いです。

たくさんの応募をお待ちしています！
yuu wanted !

▼実績紹介
作っているものはこちらからご覧いただけます。
https://yuuuu.jp/works/

具体的な業務内容
・飲食店・工務店・不動産・企業さまのwebデザイン・コーディング
→※経験が浅い方は下層ページのデザインから担当（メインデザイナーがフォローします）
・webサイトの更新業務（デザイン・コーディング）
・余力があれば紙媒体なども手伝っていただきたいです

枚方つーしんのインタビュー
ちょっと古いですが、ひらつーで紹介していただいたことがあります。やっていることはこんな感じ。（記事後半部分です。）
【枚方つーしんの記事】 http://www.hira2.jp/ad/yuu-20190310.html

募集期間
決まり次第終了とします

勤務時間

指定なし

勤務地
ビィーゴ
〒573-0031 大阪府枚方市岡本町7-1 枚方ビオルネ5階
※ビィーゴの利用料金はこちらで負担します。

給与
①：正社員
経験値・能力により相談させていただきます。
②：外注スタッフ・アルバイト
話し合いながら決めたいと思いますが、
最初は作業単位での依頼になると思います。
例）
・WEBデザイン(一式) : 150,000円～300,000円
・WEBデザイン(更新) : 2,000円～20,000円
・コーディング(1ページ) : 5,000円～20,000円
・ポスターなどの販促ツール(1点) : 5,000円～50,000円

条件
①：正社員
・Illustrator、Photoshop、XD、コーディングが出来る方
・実務経験がある、もしくはそれと同等の能力・やる気がある方
・土日祝休み、夏季休暇・冬季休暇（それぞれ1週間～10日程度）
・社会保険完備
・3年以上の実務経験
・年齢、性別、国籍は問いません
②：外注スタッフ・アルバイト
・Illustrator、Photoshop、XD、コーディングが使える方
※コーディングや簡単なデザインを担当していただきす。
・10:00～19:00の間で2～5時間程度／週2～3回程度出勤できる方
・年齢、性別、国籍は問いません

優遇するスキル
・WEBデザインができる方（フロントエンド／コーダーを含む）
・企画・ディレクションができる方

応募方法

以下の書類をhello@yuuuu.jp宛にお送りください。

・履歴書

・ポートフォリオ（作品が見れるものであれば形状は問いません）

採用方法

採用の合否に関わらず、必ずお返事いたします。

ただし業務の都合上、遅れる場合がございます。

書類を確認させていただき、通過された方にはお話をさせていただきます。

何度か一緒に作業しお互いに納得できましたら続けて作業を依頼いたします。

お問い合わせ

ご質問などございましたら、hello@yuuuu.jp宛までご連絡ください。

些細な事でもお気軽にメールください。

メールの件名を「スタッフ募集のお知らせ」としてください。

※お電話での問い合わせは受け付けておりません。

どうぞよろしくお願いいたします。

備考

お送りいただいた履歴書などは、責任を持って破棄させていただきます。

代表 平岡直樹